



広報九州

(平成21年2月10日)No1645
九州森林管理局

屋久島 世界遺産登録15周年



屋久島の進むべき道をテーマにパネルディスカッションを行うパネラーとコメンテーター



屋久島世界遺産の現状等に関する報告をする濱田調整官

「屋久島の進むべき道」をテーマにシンポジウム開く

平成20年12月20日、九州地方環境事務所、鹿児島県、屋久島町、屋久島環境文化財団および当局が主催して参加者約120人のもと、「屋久島世界自然遺産登録15周年記念シンポジウム」を屋久島町安房総合センターにおいて開催。

小野寺浩鹿児島大学学長補佐が、「屋久島の体験—世界遺産、環境文化村—」と題して基調講演を行いました。パネルディスカッションでは、前段に当局から屋久島世界自然遺産の現状などについて、関連する取り組みや現状を織り交ぜながら報告し、「課題に対して根本的な解決策を模索する時期に来ている」と討議につなげました。その後、「屋久島の進むべき道」をテーマに、日下田紀三屋久杉自然館館長をはじめ6人のパネラーと木暮甲吉屋久島森林管理署長など3人のコメンテーターにより討議がなされました。「利用者や行政がお互い助長し合いながらの地域作りが重要。思い切った方向に踏み出すことも重要」などの意見がありました。また、総括コメントで日高十七郎屋久島町長は「屋久島文化村構想の原点に戻って、これまでの議論を検証して進んでいきたい」と述べました。

閉会挨拶では、九州森林管理局宮城勇朗計画部長が「討議内容から、進むべき道の方向性はほぼ同じ、すぐにできることもある。島の住民が主役になり、行政もできることを着実にやっていくことが重要」と締めくくりました。

また、会場内では、「森林生態系保護地域」に関する解説や「樹勢回復措置」の説明など林野庁の保全に係る取り組みやその成果に関するパネル展示を行い、参加者から関心が寄せられました。

(担当＝計画課)

市町村長有志連絡協議会



地域の声を事業に民・国連携し取り組むことを確認

国有林野の所在する市町村との連携を深め、地域の声を国有林野事業に反映させていくことを目的として、九州各県の代表市町村長に出席いただき連絡協議会を昨年12月18日に開催。

会議では、まず、①森林吸収源対策の推進②国産材の安定供給体制の整備③新たな森林経営政策の確立に向けた取組④美しい森林づくり推進国民運動の取組⑤九州からの日本林業再生⑥国有林改革関係など林野庁と当局の取り組みについて説明を行いました。

その後行われた意見交換では、シカやイノシシなどの有害鳥獣被害対策についての意見や要望が出され、民有林と国有林が連携して取り組んでいくことを確認しました。また、間伐を推進するための間伐材の利活用、針広混交林の山づくりなどについて地域の実情を踏まえて意見を交換しました。

今後も市町村などと情報交換を行いながら、地域との連携を一層深めていきます。

(担当＝企画調整室)

ヤクタネゴヨウ 保護の大切さ学ぶ



説明に耳を傾ける児童ら

【屋久島森林管理署】

NPO法人ヤクタネゴヨウ調査隊と屋久島環境文化財団の主催で、屋久島立神山小学校の生徒や父兄など55人を対象に、鍋山国有林で森林教室を実施。児童らは、ヤクタネゴヨウの保護の大切さを学びました。その後は、当署職員の指導により下刈り作業を体験しました。当日は、テレビ局の取材もあり屋久島の森林に対する関心の高さが伺えました。

現地検討会で意見交換



現地で説明を受ける参加者

【森林技術センター】

森林総研育林系合同検討会の一環として、当センターが青井岳国有林に設定している試験・研究課題について、現地検討会が開かれ、全国から44名の森林総合研究所職員が参加し活発な意見交換が行われました。特に、帯状伐採複層林施業が、重点検討事項に設定されていたことから、センター職員から説明を受けた後、エクスカージョンを行い、今後の研究の参考として活かしていくことを確認しました。

路網見学会に50人が参加



現地で説明を受ける参加者

【宮崎北部森林管理署】

宮崎県延岡市の畑国有林で、簡易で崩れにくい作業路現地見学会を実施。東臼杵農林振興局林務課、市町村、林業事業者、西都児湯森林管理署の職員など約50人が参加し、作業路を作設している(有)延岡物産の社員から、作設状況の説明を受けた後、オペレータによる実演や既設の表土ブロック積工法による路体や洗越の作設箇所などを見学し、意見交換を行いました。参加者からは、「来年度は、是非導入したい。今後の作業路作設の参考になった」などの意見が聞かれました。

フルマラソンに挑戦

【屋久島森林管理署】

心と体の健康づくりのため、第28回いぶすき菜の花マラソン大会が開かれ、署長をはじめ職員6人が参加し、開聞岳の周辺を1万8千人のランナーと一緒に、走りました。全員フルマラソンは初挑戦でしたが、職員全員完走することができました。この経験を踏まえ、更なる健康づくりへの挑戦、やればできる気持ちを業務へ繋げていこうと誓い合いました。



フルマラソンに挑戦した6人

「森の巨人」歩道周辺を整備



整備後の「森の巨人」前で記念撮影

【西都児湯森林管理署】

当署管内にある森の巨人たち百選の「コウヤマキ」は、保護協議会により登山歩道などの周辺整備を毎年行っています。今年も会員38人が歩道脇にある枯損木の除去や歩道の整備、手作りの案内板や樹名板の設置などに取り組みました。会員は、重たい資材を運搬し、尾根筋の岩場では設置作業にも難航しながらも無事に作業を終えて、心地よい汗に満足の様子でした。これからも森の巨人を訪れる皆さんに喜んでいただけるように保護や周辺整備に取り組んでいくことにしています。

林政記者クラブ 五島で生産現場を視察



現地で間伐や集材の方法を取材する一行

人工林材島外へ初出荷など取材

1月16日～17日の2日間、林政記者クラブ5社(林材・林業・日刊木材・林経・ザイモク)の現地視察を実施。

津元頼光局長らが、長崎県五島市で開かれたスギ・ヒノキ人工林材(間伐材)の島外への初出荷を記念した式典や、同材の生産現場などを案内しました。

1日目は、国有林材(間伐材)の伐採現場を視察。間伐の方法や集材の方法などを取材しました。

2日目は、五島市福江港埠頭で行われた五島人工林材島外出荷記念式典を取材しました。

記者の皆さんには、五島のスギ・ヒノキ人工林材(間伐材)を島外へ初出荷する試みなど、国産材復権に向け当局が進めている新たな取り組みについて理解を深めていただきました。

(担当＝総務課)

採種林で保育作業

【屋久島森林管理署】

絶滅危惧種であるヤクタネゴヨウの種の保存と増殖・復元を目的に屋久島町内の鍋山国有林に設定された見本林・採種林において、屋久島生物多様性保全協議会や一般ボランティアの方々など総勢32人が参加し保育作業を行いました。当日は、あいにくの雨模様でしたが、各人が持参した鎌で苗木の周りの雑草を刈払ったり、成長を阻害している雑灌木を除伐したりして、公有の財産として森林を守り育て、未来に引き継ぐため具体的な行動を実践しました。



保育作業をする参加者

労基署との協議会開く



現地視察を行う参加者

【鹿児島森林管理署】

鹿児島労働基準監督署、北薩・屋久島森林管理署、当署が合同で「平成20年度の労働安全衛生確保対策連絡協議会」を開催。18人が参加して、保育間伐活用型の現場で壊れにくい路網作りの視察や、安全パトロールを行いました。その後、事業者の方も参加いただき協議会を開催。協議会では各森林管理署から事業個所などの説明、労働基準監督署から林業をはじめとする労働災害状況や安全パトロールの講習の説明があり、活発な意見交換を行いました。参加者は安全衛生の推進に心を新たにしました。

児童7人にお届け講座



樹木の特徴について学ぶ児童

【宮崎北部森林管理署】

環境教育で、林業について学習を行っている宮崎県日之影町立日之影小学校3年生7人を対象にお届け講座を行いました。多目的ホールで、森林の働きや木を育てる過程、森林官の仕事の内容などを説明しました。また、昔の森林鉄道の写真を紹介すると児童は列車に積まれた木の大きさにビックしていました。校庭では、職員手作りの樹名板を用い樹木の名前や特徴について学びました。

宿泊研修で講義

【屋久島森林管理署】

屋久島高等学校普通科環境コースの秋季宿泊研修が行われました。当署は、屋久島の森林現況や樹木同定のやり方、天然林と人工林の取り扱い方、国有林が進めている取り組みなどを講義しました。また、現地実習では人工林の間伐標準地調査を行い、調査データの活用方法、間伐の大切さや地球温暖化防止対策における森林の役割について説明しました。今回の研



樹木の同定方法について学ぶ生徒

修を機に、生徒達が屋久島の自然を考えるきっかけに繋がることを期待しています。

森林学会で研究発表



発表する森林技術専門官

【森林技術センター】

大分県別府市で開かれた日本森林学会九州支部研究発表会において、当センターから森林技術専門官が「コスト1/2を目指した誘導伐システム（帯状伐採による複層林施業）の開発」を発表しました。この発表会は主に学・研究機関から発表される研究成果などですが、今回、行政機関における現場に根ざした研究として、平成19年度技術開発重点課題の取組成果を発表したもので、多くの研究者から評価され、意を強くしました。

市と合同でクリーン活動



ゴミを回収する参加者

【鹿児島森林管理署】

鹿児島市下福元町県道沿いの権現ヶ尾国有林内において、鹿児島市の協力を得て当署職員など約30人でクリーン活動を行いました。参加者らは急傾斜地に苦勞しながらも、家電、家庭ゴミなどの捨てられたあらゆるゴミを拾い集め、2トントラック一杯のゴミを回収しました。その後、注意標識の設置やロープを張るなどの作業を行いました。今後とも不法投棄防止に向け関係機関と連携しながら取り組んでいくことにしています。

JICA研修員を受入

九州国有林の取組に高い関心

独立行政法人国際協力機構(JICA)からの依頼を受けて中国国家林業局から7人の研修生を受け入れました。

はじめに研修生は、津元頼光局長から管内国有林の特徴、管理経営の方法などの説明を受けました。研修生からは、国有林の予算の仕組み、伐採量、スギ・ヒノキの成長量など、多くの質問がありました。

その後研修生は、阿蘇地区民有林直轄治山事業地を視察。民有林直轄治山事業の仕組み、治山事業予算、施工されている工種について高い関心を示していました。



現地で治山事業の説明を受ける研修生

短時間ではありましたが、数多くの質問などがあり、大変有意義な研修となりました。

(担当＝総務課)

龍神杉歩道の清掃活動



片付けたゴミを運ぶ参加者

【屋久島森林管理署】

屋久島観光協会、ガイド、屋久島町、当署など24人が、龍神杉歩道入口から約4キロメートル地点にある小屋跡の清掃活動を行いました。当日はあいにくの雨模様でしたが、参加者が協力して片付けた結果、見違えるようにきれいになりました。片付けたゴミは、全員で分担し背負子に担ぎ、登山道入口まで運びました。これを機に、龍神杉歩道の活用がなされることを期待します。

[トップへ戻る](#) ご意見等は[こちら](#)から